

2025 第 15 回全日本少年軟式野球クラブチーム選抜大会北海道予選
兼第 1 回ウラタスポーツ旗争奪サマーチャンピオンシップ予選大会規定

1. 13 チームによるトーナメント方式とし、試合球はナガセケンコー(株)製「健康ボールM号」とする。
2. 大会初日に 1 回戦・2 回戦を行い、2 日目に準決勝・決勝・3 位決定戦を行う。3 日目を予備日とする。雨天等によって大会日程に変更が生じた場合は大会本部の決定に従うこと。
3. 試合は 7 回または 90 分で新しいイニングに入らないこととする。なお、準決勝・決勝は 7 回または 100 分で新しいイニングに入らないこととする。(後攻チームが攻撃中、勝っている時点でタイムアップとなった場合は試合を終了する。)
4. 規定時間及び回数までに勝敗が決着しない場合「特別延長ルール」を適用し、最長 2 イニングまで行うものとする。ただし、準決勝・決勝は 3 イニングまで行うものとする。それでも勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決定する。
5. 「特別延長ルール」は無死走者 1・2 塁、打者は前イニングからの継続とし、走者はその打者からさかのぼった打順からそれぞれ 1 塁走者・2 塁走者とする。
(例) 特別延長初回の攻撃、その前のイニングが 4 番打者で終わった場合、5 番打者からスタートし、走者は 1 塁に 4 番打者、2 塁に 3 番打者がそれぞれ塁につく
6. 5 回以降 7 点以上の差があるときは、コールドゲームを採用する。(決勝戦は除く)
7. 試合開始後、雨等による試合の続行が審判員によって不可能と判断された時、5 回表の攻撃が完了して、後攻チームが勝っている場合は、成立試合としてコールドゲームを宣言する。
それ以前において中止された試合は、成立試合とならず再試合とする。
8. ベンチに入れる者は、事前に登録されていえる代表・監督・コーチ・スコアラー・マネージャー・選手とする。スコアラー及びマネージャーは選手が兼ねることができる。
9. 投手の投球制限については、大会 1 日 7 回までとする。
10. 試合の投球練習は最初に登板した時のみ 5 球とし、それ以降は 3 球とする。
11. ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
12. 危険防止のため、捕手は試合、投球練習・ブルペンに関わらず必ずレガース・ヘルメット・プロテクターを着用すること。ファールカップも着用すること。
13. バッター及びランナーは必ずヘルメットを着用すること。(ランナーコーチもヘルメットを着用すること。)
14. 手袋の使用については、白か黒を基調としたものとする。
15. 抗議は、監督だけが行うことができる。ただし、ストライク・ボール・アウト・セーフ・ボークに対する抗議は認めない。また、必要以上の抗議は認めない。
16. その他の競技規則は、全日本軟式野球連盟のルールに基づくものとする。

17. 試合前のシートノックは行いません。
18. オーダー交換は、第1試合目は試合開始予定時刻の30分前、2試合目以降は前の試合の4回終了時に本部席にて行います。
19. ブルペンの使用は前の試合の4回終了後以降とします。
20. 1塁側のチームにてアナウンス、3塁側のチームにて得点板をお願いします。
21. ボールボーイは当該チームにて、それぞれ自チーム側をお願いします。
22. グラウンド整備は試合が終了した両チームで行ってください。
23. 試合進行状況により試合開始時間を早めることがございますが、最大でも試合開始予定時刻より30分前までと致します。

NBJ 北海道 大会実行委員会